

SDGs スタートアップ研究分科会・2025 年度方法論習得コース第 3 回実施報告

2026 年 2 月 11 日

PMI 日本支部 理事

SDGs スタートアップ研究分科会代表

稲葉 涼太

去る 2 月 7 日(土)、SDGs スタートアップ研究分科会の方法論習得コース第 3 回の会合を開催しましたのでご報告いたします。

1. 2025 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要

■【SDGs スタートアップ研究分科会とは】 PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019 年 10 月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。2025 年度より SDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「方法論習得コース」と、実際に事業として行っている SDGs プロジェクトを支援する「実践支援コース」の二本立てで実施しております。

A) 方法論習得コースについて

SDGs が社会に浸透し、「Why SDGs?」と「What is SDGs?」が提唱される機会も増えました。SDGs を絵に描いた餅にしないために実際に SDGs を事業として推進することが大切です。

しかし、SDGs 事業の取り組みを始めようとしても立ち上げ推進がなかなか効果的にできていないという課題認識を私達は持っています。

「How to Achieve SDGs」のために SDGs 事業に即したプロジェクトマネジメント手法である『SDGs スタートアップ方法論』を研修・ワークショップ形式で体得できるコースです。2019 年からの 6 年間で、企業・行政・学校・非営利法人等、100 団体近くに研修、およびワークショップを提供しています。

今年度も 10 月、12 月、2 月の計 3 回の分科会を開催しています。

また、昨年から PMI 日本支部で「学習歴証明デジタルバッジ」の制度を開始しています。本コースの受講と、提出レポートの所定の基準到達で、PMI 日本支部としての学習歴を証明するデジタルバッジを発行し SNS やご自身のプロフィール等でアピールいただくことができます。



図 1 (イメージ見本) SDGs スタートアップ研究分科会 学習歴証明デジタルバッジ

B) 実践支援コースについて

実践支援コースは原則として昨年度の方法論習得コースに参加された団体で実際に実行されている SDGs プロジェクトを対象として伴走型の PM 支援を行います。

今年度も、既に株式会社・有限会社・学校教育機関・非営利法人の 7 法人と実際の SDGs 事業の支援を行っています。

		2025年										2026年			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降	
全体							▲ 内閣府総会			毎回土曜日 13：00－17:00					
活動①： SDGsスタートアップ研究 (方法論習得コース)							参加団体 募集期間		▲ キックオフ 10/18(土)	▲ 2回目 12/20(土)		▲ 3回目 2/7(土)			
活動②： SDGsスタートアップ研究 (実践支援コース)					▲ キックオフ	▲ 2回目		▲ 3回目		▲ 4回目					
活動③： SDGsスタートアップセミナー						▲ セミナー 9月13日(土)開催							▲ セミナー		
その他										内閣府活動報告書の提出(2月末)					
活動内容	活動①	- SDGsスタートアップ方法論を研修・ワークショップで体得する - 年度内の実施回数、実施頻度(予定)：3回予定 - 実施場所：PMI日本支部会議室など(東京都内：当面オンライン)													
	活動②	- 主に2024年度の参加団体、あるいは既にSDGs事業推進を行っている団体を対象に「ビジネス」「行政」「教育」など実際に事業として行っている(または実際にこれから立ち上げる)プロジェクトをPMI日本支部がPM支援して推進する - 実施場所：PMI日本支部会議室または参加団体の事業所(東京都内：当面オンライン)													
	活動③	- 活動1で開発されたSDGsスタートアップ手法と活動2の実践事例を学ぶイベントを開催する。 - 年度内の実施回数、実施頻度(予定) 年度末に2回予定 - 実施場所：PMI日本支部会議室または外部セミナー会場(状況に応じてオンライン開催を検討)													

図1 SDGs スタートアップ研究分科会のスケジュール

2. 第3回分科会概要

■開催日時:2026年2月7日(土)13時00分~17時00分

■会場:オンライン(ZOOM)

当日の概況:

今回も多く地域の、多様な業種の方々にお集まり頂き、10団体計12名の方々に参加いただきました。

当日のアジェンダは以下です。

1. イントロダクションと前回ふりかえり
2. チェックイン
3. 講義①:ベネフィットリストについての説明
4. 講義②:ベネフィットリストの社会背景:ESGやコレクティブインパクト
5. ワークショップ①:ベネフィットリストの作成I
6. ワークショップ②:ベネフィットリストの作成II
7. ふりかえり
8. 各種アナウンス

第3回のテーマは「ベネフィットリスト」というPMI日本支部のオリジナル手法です。SDGs事業の事業がもたらすベネフィットと受益者を明確にし、事業評価を定量的に行い、事業が上手くいっているのか、改善や方向転換の必要があるのかを検証するとともに、ステークホルダーへの報告とコミュニケーションを行うためのツールです。

ロジックモデルで策定した事業のアウトプットの活動評価と、アウトプットが実現するアウトカム成果評価を可視化し素早く検証できるようにすることで、事業が上手くいって

いるのかそれとも見直しが必要か、見直す場合どのようなカイゼンやピボットが必用かを考えることができます。

そして、アウトプットとアウトカムが各ステークホルダーにどのようなベネフィットをもたらすかを可視化することで、事業の「目的」に対して事業の「活動」と「成果」が整合していることを検証できます。

また、SDGs の事業を行うためには組織単体ではなく異なる組織でインパクトを集めて創発するコレクティブインパクトの話も講義の中で触れましたが、コレクティブインパクトを実現するにはより透明で正確性のあるコミュニケーションが信頼構築の上で大事です。コミュニケーションを行う上でも定量的な評価は大事でそのためにも、ベネフィットリストが有効であると考えます。

第1回講義にてリーンキャンパスで SDGs 事業コンセプトを可視化した後に、第2回で SDGs 事業のロジックモデルを策定し、第3回で目標の設定と評価を行い、軌道修正をしながら SDGs 事業を推進するアジャイルなアプローチを体得する研修三部作でした。

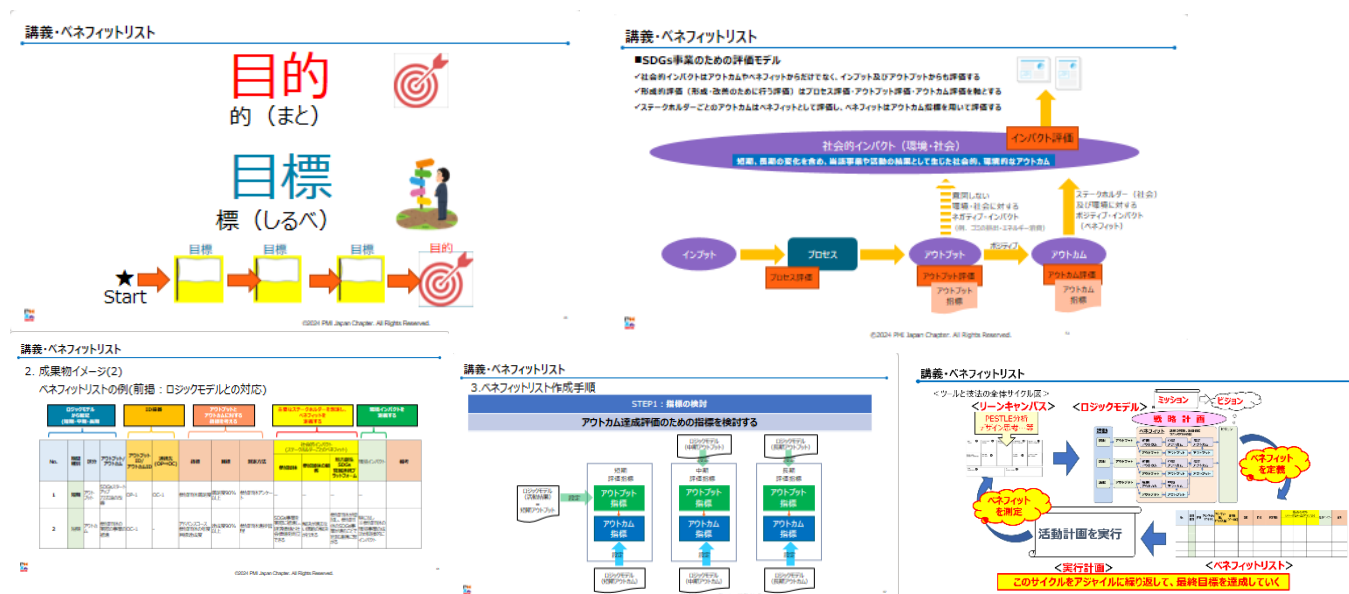


図2 講義資料（一部）

ワークショップでは PMI 側がロールプレイ用に用意した、マルチステークホルダー型の仮想 SDGs 事業シナリオを元に以下のワークを進めました。

- 1 アウトプットとアウトカムそれぞれの評価の為の指標を検討する
- 2 指標の目標および測定方法を検討する
- 3 各アウトカムが価値提供する「主たる顧客」を検討する
- 4 「主たる顧客」に対する価値提供（ベネフィット）を検討する

ベネフィットリストを作成した後、YWT という振り返りワークフレームを用いて全3回の分科会の振り返りを行いました。

参加団体から、全3回を通じたワークフレームや方法論がSDGs事業を行う上での有効性や、「実事業で活用したい」「色々な異分野の事業者の方との対話は気づきが多い」などの声を頂きました。

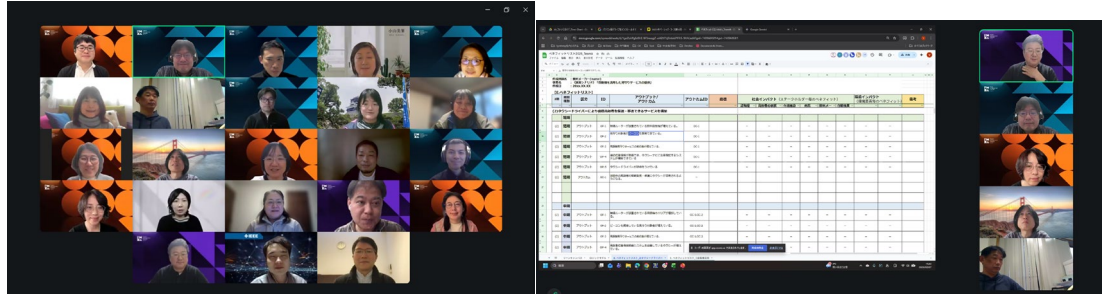


図3 ワークショップの様子

3. 今後の活動予定

2026年3月14日（土）に、2025年度の分科会集大成として「SDGs スタートアップセミナー」を開催します。

【セミナー概要】

- 日時：2025年3月14日（土）9時30分～12時00分（参加無料）
- 会場：オンライン（Eventos）
- 主催：PMI 日本支部
- 主な内容

【講演】

1. オープニング・PMI 日本支部について

講演者：PMI 日本支部 理事／SDGs スタートアップ研究会 代表 稲葉 涼太

2. 講演Ⅰ 始まる前にブームで終わらせないサステナビリティ ～価値向上のためのSDGs スタートアップ方法論の軌跡～

講演者：PMI 日本支部 理事／SDGs スタートアップ研究会 代表 稲葉 涼太

3. 休 憩

4. 講演Ⅱ 「サステナビリティ」をプロジェクトに！ ～GPM® P5™ Standard とSDGs スタートアップ方法論から学ぶ～

講演者：PMI 日本支部 SDGs スタートアップ研究会 副代表 大前 良太

5. 講演Ⅲ パネルディスカッション 「方法論習得コース」を推進して学んだこと（仮）

登壇者：PMI 日本支部 SDGs スタートアップ研究会 田中 理恵子、丸山 ゆきえ、渡辺 啓子

モデレーター：PMI 日本支部 SDGs スタートアップ研究会 月元 龍磨

6. クロージング

※イベントページ

<https://pmi-japan.eventos.tokyo/web/portal/426/event/15700>